

図8【ストレス】のlog-logプロットから【ストレス】の比例ハザード性は否定され、COX比例ハザードモデルによる検証は妥当ではない。それ故【ストレス】の評定値ごとの群間比較を行った。図12に、【ストレス】生存率曲線の差の検定(0点、1点、2点の3群)を表11、また表12~表14に【ストレス】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表11および表12~表14から、【ストレス】の評定が1点の群と2点の群とには生存曲線に差が認められた。

2)【精神病症状】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【精神病症状】の小項目それぞれのCOX比例ハザードモデルによる解析結果を表15にまとめた。表15のようにCOX比例ハザードモデルによる検定で【3)概念の統合障害】のみ10%水準の有意傾向になった。退院申請時の【3)概念の統合障害】は評定値が0点=259名、1点=71名、2点=13名と2点の評定となった対象者が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。【3)概念の統合障害】の生存率曲線を図13に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel流)および一般化Wilcoxon検定(Peto-Prentice流)の結果を表16に示した。表16より【3)概念の統合障害】の評定値ごとの生存率曲線には差が認められなかった。

3)【非精神病性症状】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【非精神病性症状】の小項目それぞれのCOX比例ハザードモデルによる解析結果を表17にまとめた。表17から【1)興奮・躁状態】【2)不安・緊張】【3)怒り】【7)解離】および【8)知的障害】の5項目はCOX比例ハザードモデルによる検定が5%水準で

有意になった。このうち、【2)不安・緊張】を除く4項目は群1または群2に有効なデータがないためlog-logプロットを描くことができなかった。図14~図15に【2)不安・緊張】の生存率曲線とlog-logプロットを示した。図15から【2)不安・緊張】の解析での比例ハザード性が確認され、表17のハザード比【2)不安・緊張】:1.839のハザード比で通院移行後の暴力の危険性を高めることが示された。

【1)興奮・躁状態】【3)怒り】【7)解離】および【8)知的障害】の4項目は比例ハザード性の検証ができなかったため、生存率曲線の差の検定を行った。

退院申請時の【1)興奮・躁状態】は評定値が0点=301名、1点=35名、2点=7名と2点の評定となった対象者が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。【1)興奮・躁状態】の生存率曲線を図16に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel流)および一般化Wilcoxon検定(Peto-Prentice流)の結果を表18に示した。表18より、【1)興奮・躁状態】0点の群と【1)興奮・躁状態】1点以上の群とには生存曲線に1%水準で有意な差が認められた。

退院申請時の【3)怒り】は評定値が0点=291名、1点=41名、2点=11名と大半が0点であったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。【3)怒り】の生存率曲線を図17に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel流)および一般化Wilcoxon検定(Peto-Prentice流)の結果を表18に示した。表18より、【3)怒り】0点の群と【3)怒り】1点以上の群とには生存曲線に1%水準で有意な差が認められた。

【7)解離】は評定値が0点=336名、1点=7名、2点=0名と0点以外の発生件数が

10 件以下であり群間比較にも耐えられないため、ログランク検定および一般化 Wilcoxon 検定は行わなかった。

退院申請時の【8）知的障害】は評定値が 0 点=198 名、1 点=77 名、2 点=68 名であった。図 18 に、【8）知的障害】生存率曲線の差の検定（0 点、1 点、2 点の 3 群）を表 20、また表 21～表 23 に【8）知的障害】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表 20 および表 21～表 23 から、【8）知的障害】の評定が 0 点の群は 1 点の群および 2 点の群の生存率曲線との間に差が認められた。1 点の群と 2 点の群との間には生存率曲線の差は認められなかった。

4) 【内省・洞察】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【内省・洞察】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 24 にまとめた。表 24 のように、【2）対象行為以外の他害行為への内省】と【4）対象行為の要因理解】が COX 比例ハザードモデルによる検定が 5%水準で有意になった。【3）病識】は 10%水準の有意傾向に留まった。【2）対象行為以外の他害行為への内省】は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができなかった。図 19～図 20 に【4）対象行為の要因理解】の生存率曲線と log-log プロットを示し、図 21～図 22 に【3）病識】の生存率曲線と log-log プロットを示した。図 20 から【4）対象行為の要因理解】の解析での比例ハザード性が確認され、表 24 のハザード比【4）対象行為の要因理解】: 1.564 のハザード比で通院移行後の暴力の危険性を高めることが示された。

【3）病識】は図 22 から比例ハザード性が確認され、10%水準の有意傾向が支持された。

【3）病識】は評定値が 0 点=160 名、1 点=155 名、2 点=28 名であり、生存率曲線の差

の検定も行ったが、図 23、表 25 に示した生存率曲線の差の検定結果のように、3 群比較においても 10%水準の有意傾向に留まった。

【2）対象行為以外の他害行為への内省】は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができなかったため、0 点、1 点、2 点の 3 群で生存率曲線の比較を行った。各評定値の人数は 0 点=205 名、1 点=107 名、2 点=31 名である。【2）対象行為以外の他害行為への内省】の生存率曲線を図 24 に、【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（0 点、1 点、2 点の 3 群）を表 26、また表 27～表 29 に【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表 26 および表 27～表 29 から【2）対象行為以外の他害行為への内省】の 0 点、1 点、2 点の 3 群の生存率曲線の差が認められ、0 点の群と 2 点の群との差が 5%水準で認められたが、1 点の群と 2 点の群との差は認められず、0 点の群と 1 点の群は 10%水準の有意傾向に留まった。

5) 【生活能力】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【生活能力】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 30 にまとめた。表 30 のように、【3）金銭管理】と【4）家事や料理】【12）過度の依存】が COX 比例ハザードモデルによる検定が 5%水準で有意になった。【11）生産的活動・役割】は 10%水準で有意傾向となった。上記 4 項目は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができず、比例ハザード性の確認ができなかったため、生存率曲線の比較を行った。

退院申請時の退院申請時の【3）金銭管理】は評定値が 0 点=242 名、1 点=83 名、2 点=18 名であった。【3）金銭管理】の各評定値 3 群の生存率曲線を図 25 に、【3）金銭管理】

生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）を表31、また表32～表34に【3】金銭管理】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表31および表32～表34から【3】金銭管理】の評定が0点の群<1点の群<2点の群の順に通院移行後の暴力の危険性が高まることが示された。

退院申請時の【4】家事や料理】は評定値が0点=225名、1点=105名、2点=13名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図26に、ログランク検定（Cochran-Mantel-Haenszel 流）および一般化 Wilcoxon 検定（Peto-Prentice 流）の結果を表35に示した。表35より、【4】家事や料理】0点の群と【4】家事や料理】1点以上の群とには生存曲線に1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【12】過度の依存】は評定値が0点=291名、1点=42名、2点=10名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図27に、ログランク検定（Cochran-Mantel-Haenszel 流）および一般化 Wilcoxon 検定（Peto-Prentice 流）の結果を表36に示した。表36より、【12】過度の依存】0点の群と【12】過度の依存】1点以上の群とに0.1%水準で有意な差が認められた。

退院申請時の【5】安全管理】は評定値が0点=291名、1点=41名、2点=12名と大半が0点であったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図28に、ログランク検定（Cochran-Mantel-Haenszel 流）および一般化 Wilcoxon 検定（Peto-Prentice 流）の結果を表37に示した。表37より、【5】安全管理】0点の群と【5】安全管理】1点以

上の群との生存曲線には差は認められなかった。

退院申請時の退院申請時の【11】生産的活動・役割】は評定値が0点=181名、1点=105名、2点=57名であった。【11】生産的活動・役割】の各評定値3群の生存率曲線を図29に挙げ、退院申請時の0点、1点、2点の3群での生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）を表38、また表39～表41に【11】生産的活動・役割】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表38および表39～表41から【11】生産的活動・役割】の0点、1点、2点の3群の生存率曲線の差が認められ、0点の群と1点の群との差が1%水準で認められたが、1点の群と2点の群、0点の群と2点の群との差は認められなかった。

5)【衝動コントロール】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【衝動コントロール】の小項目それぞれのCOX 比例ハザードモデルによる解析結果を表42にまとめた。表42のように【衝動コントロール】の5つ全ての小項目がCOX 比例ハザードモデルによる検定が5%水準で有意になった。しかし上記5項目は群1または群2に有効なデータがないためlog-logプロットを描くことができず、比例ハザード性の確認ができなかったため、生存率曲線の比較を行った。

退院申請時の【1】一貫性のない行動】は評定値が0点=284名、1点=50名、2点=9名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図30に、ログランク検定（Cochran-Mantel-Haenszel 流）および一般化 Wilcoxon 検定（Peto-Prentice 流）の結果を表43に示した。表43より、【1】一貫性のない行動】0点の群と【1】一貫性のない行動】1点以上の群

とには生存曲線に 0.1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【2】待つことができない】は評定値が 0 点=290 名、1 点=43 名、2 点=10 名と 2 点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては 0 点の群と 1 点ないし 2 点の群の 2 群に分けた。2 群の生存曲線を図 31 に、ログランク検定 (Cochran-Mantel-Haenszel 流) および一般化 Wilcoxon 検定 (Peto-Prentice 流) の結果を表 43 に示した。表 43 より、【2】待つことができない】0 点の群と【2】待つことができない】1 点以上の群とには生存曲線に 1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【3】先の予測をしない】は評定値が 0 点=236 名、1 点=83 名、2 点=24 名であり、3 群の生存率曲線を比較した。3 群の生存率曲線を図 32 に、【3】先の予測をしない】生存率曲線の差の検定 (0 点、1 点、2 点の 3 群) を表 44 に、生存率曲線の各群の差の検定を表 45~表 47 に示した。表 44 から【3】先の予測をしない】の 0 点、1 点、2 点の 3 群の生存率曲線には 0.1%水準で有意な差が認められ、表 45~表 47 より 0 点の群と 1 点の群および 2 点の群との間には 1%水準で有意差が認められたが、1 点の群と 2 点の群との間には差が認められなかった。

退院申請時の【4】そそのかされる】は評定値が 0 点=308 名、1 点=30 名、2 点=5 名と 2 点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては 0 点の群と 1 点ないし 2 点の群の 2 群に分けた。2 群の生存曲線を図 33 に、ログランク検定 (Cochran-Mantel-Haenszel 流) および一般化 Wilcoxon 検定 (Peto-Prentice 流) の結果を表 49 に示した。表 48 より、【4】そそのかされる】0 点の群と【4】そそのかされる】1 点以上の群とには生存曲線に 1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【5】怒りの感情の行動化】

は評定値が 0 点=299 名、1 点=29 名、2 点=15 名と 2 点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては 0 点の群と 1 点ないし 2 点の群の 2 群に分けた。2 群の生存曲線を図 34 に、ログランク検定 (Cochran-Mantel-Haenszel 流) および一般化 Wilcoxon 検定 (Peto-Prentice 流) の結果を表 49 に示した。表 49 より、【5】怒りの感情の行動化】0 点の群と【5】怒りの感情の行動化】1 点以上の群とには生存曲線に 5%水準の有意差が認められた。

6)【非社会性】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【非社会性】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 50 にまとめた。表 50 中、【3】犯罪志向的態度】は計算が収束できなかったが、退院申請時の【3】犯罪志向的態度】は評定値が 0 点=338 名、1 点=4 名、2 点=1 名で、1 点ないし 2 点となった 5 名はいずれも通院移行後に暴力に及んでいなかった。

表 50 のように、【5】他者を脅す】【6】だます、嘘を言う】【9】性的逸脱行動】の 3 項目が COX 比例ハザードモデルによる検定が 5%水準で有意になった。3 項目は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができず、比例ハザード性の確認ができなかった。

またこれらの小項目は出現率が非常に低く、【5】他者を脅す】は評定値が 0 点=335 名、1 点=5 名、2 点=3 名、【6】だます、嘘を言う】は評定値が 0 点=332 名、1 点=9 名、2 点=2 名、【9】性的逸脱行動】は評定値が 0 点=336 名、1 点=6 名、2 点=1 名とそれぞれ 0 点以外の発生件数が少なく、群間比較にも耐えられないため、生存率曲線の比較は行わなかった。

7)【現実的計画】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【現実的計画】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 52 にまとめた。表 52 のように、単一の項目で通院処遇移行後の暴力を 5%水準で有意に予測する【現実的計画】の小項目は認められなかった。

8)【治療・ケアの継続性】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【治療・ケアの継続性】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 53 にまとめた。表 53 のように、単一の項目で通院処遇移行後の暴力を 5%水準で有意に予測する【治療・ケアの継続性】の小項目は認められなかった。

考察

本研究の結果、共通評価項目の 17 項目の合計点は通院処遇移行後の暴力を予測し、中項目では【衝動コントロール】【非社会性】【治療効果】【ストレス】の評定値が高いと比較的

早期に何らかの暴力に至りやすいことが示された。小項目では【非精神病性症状】の小項目【1) 興奮・躁状態】【2) 不安・緊張】【3) 怒り】【8) 知的障害】、【内省・洞察】の小項目【4) 対象行為の要因理解】【2) 対象行為以外の他害行為への内省】、【生活能力】の小項目【3) 金銭管理】【4) 家事や料理】、【11) 生産的活動・役割】、【12) 過度の依存】、【衝動コントロール】の全ての小項目が高いと比較的早期に何らかの暴力に至りやすいことが示された。【非社会性】の小項目はいくつか COX 比例ハザード比が高い項目もあったが、いずれも 1 点以上の発生件数が少ないために群間比較はできなかった。

本研究の結果から共通評価項目の複数の下位項目ならびに 17 項目の合計点が通院移行後の暴力を予測することが明らかになった。今後は、入院中の問題行動の予測について解析し、各項目の性質を詳細に描くことを通じ、今後の尺度改訂につなげていきたい。

表 1 中項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量²

共変量	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
精神病症状	0.254	0.205	1.526	1	0.217	1.289	0.862	1.927
非精神病性症状	0.307	0.214	2.067	1	0.151	1.360	0.894	2.068
自殺企図	-0.653	0.868	0.566	1	0.452	0.520	0.095	2.851
内省・洞察	0.385	0.228	2.844	1	0.092	1.469	0.940	2.297
生活能力	0.345	0.234	2.171	1	0.141	1.413	0.892	2.237
衝動コントロール	1.017	0.209	23.756	1	0.000	2.765	1.837	4.161
共感性	0.342	0.281	1.481	1	0.224	1.408	0.811	2.444
非社会性	0.520	0.237	4.831	1	0.028	1.682	1.058	2.674
対人暴力	0.327	0.332	0.967	1	0.325	1.386	0.723	2.658
個人的支援	0.319	0.229	1.935	1	0.164	1.376	0.878	2.157
コミュニティ要因	-0.048	0.225	0.046	1	0.830	0.953	0.613	1.480
ストレス	0.517	0.290	3.173	1	0.075	1.677	0.949	2.963
物質乱用	0.116	0.232	0.249	1	0.618	1.123	0.712	1.771
現実的計画	-0.157	0.209	0.568	1	0.451	0.854	0.567	1.287
コンプライアンス	0.366	0.251	2.135	1	0.144	1.443	0.882	2.358
治療効果	0.911	0.348	6.866	1	0.009	2.486	1.258	4.914
治療・ケアの継続性	0.005	0.204	0.001	1	0.980	1.005	0.673	1.500
17項目合計	0.076	0.029	6.999	1	0.008	1.079	1.020	1.142

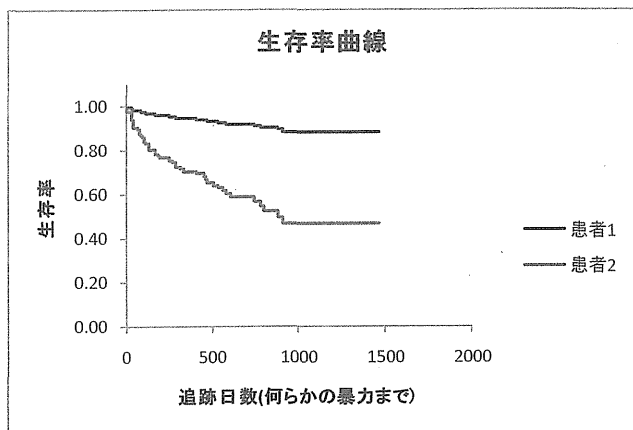


図 1 【治療効果】の生存率曲線

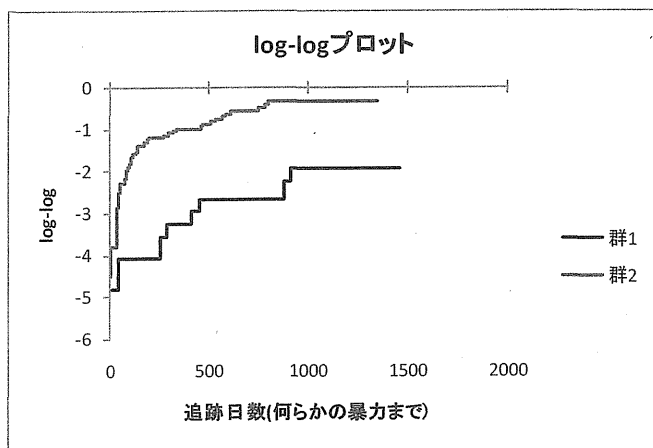


図 2 【治療効果】の log-log プロット

² 本表の値は、17項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを 1つの表にまとめたものである。

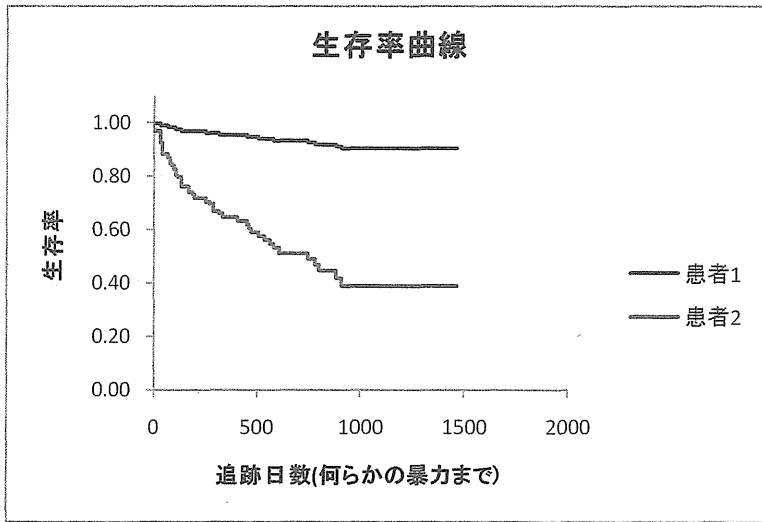


図3 【17項目合計点】の生存率曲線

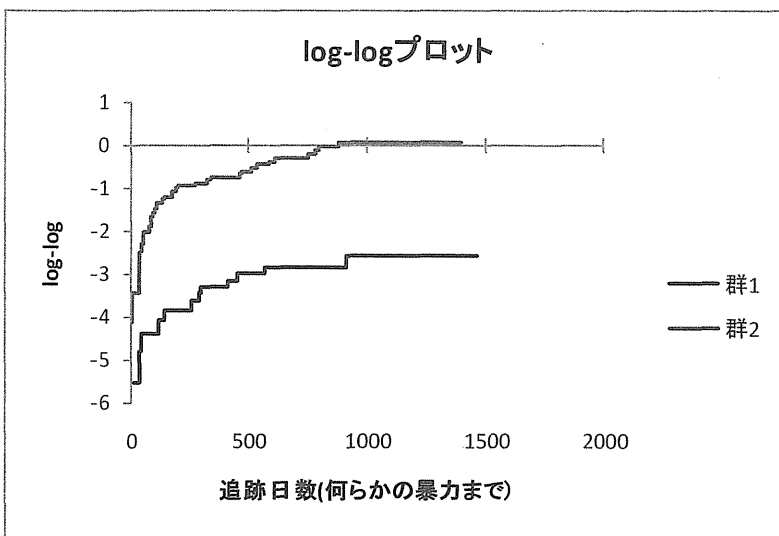


図4 【17項目合計点】のlog-logプロット

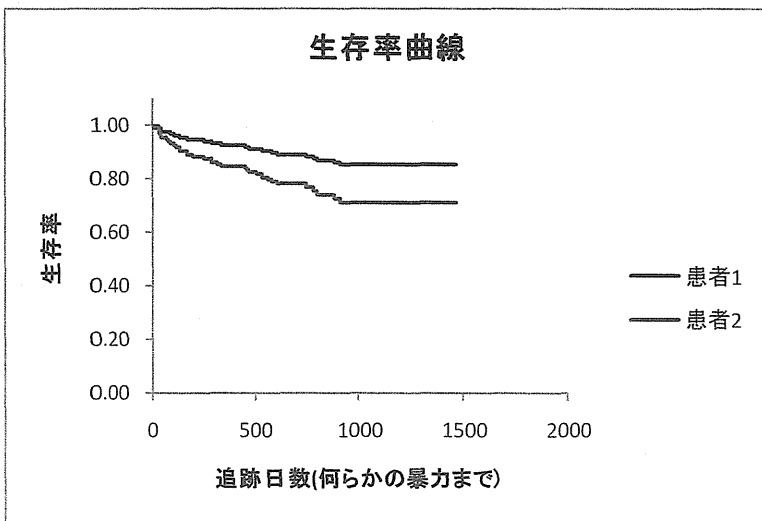


図5 【内省・洞察】の生存率曲線

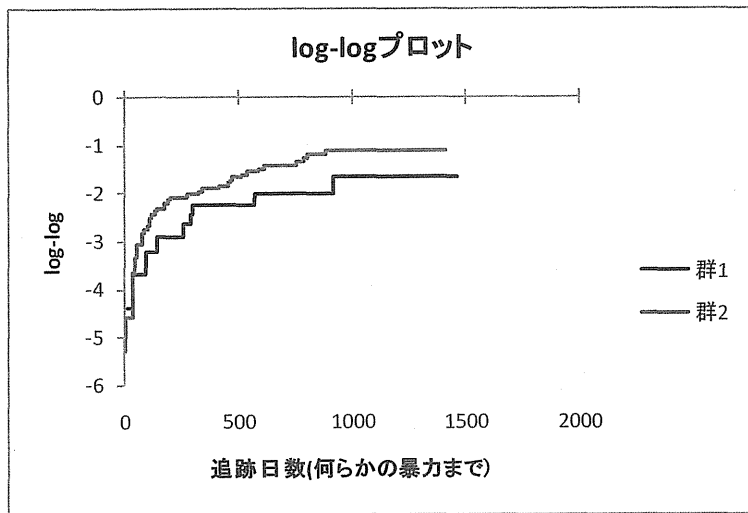


図6 【内省・洞察】のlog-logプロット

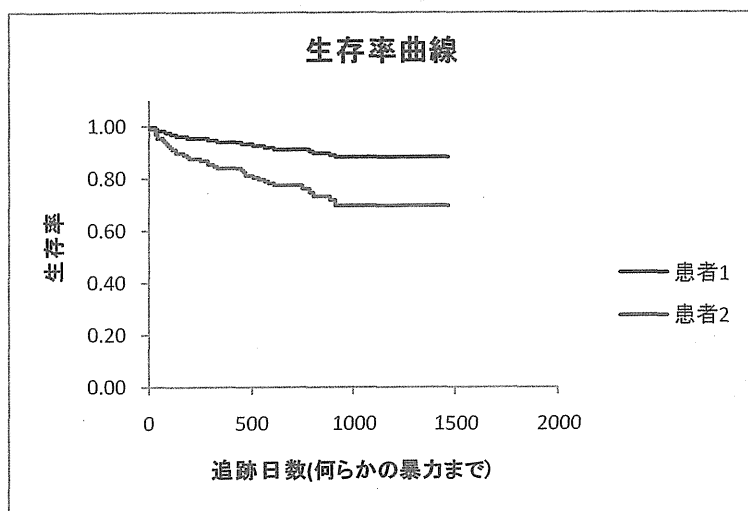


図7 【ストレス】の生存率曲線

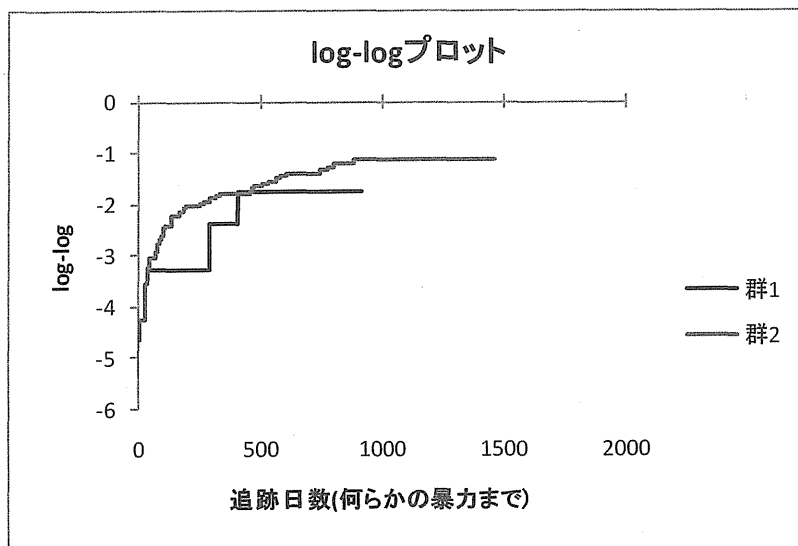


図8 【ストレス】のlog-logプロット

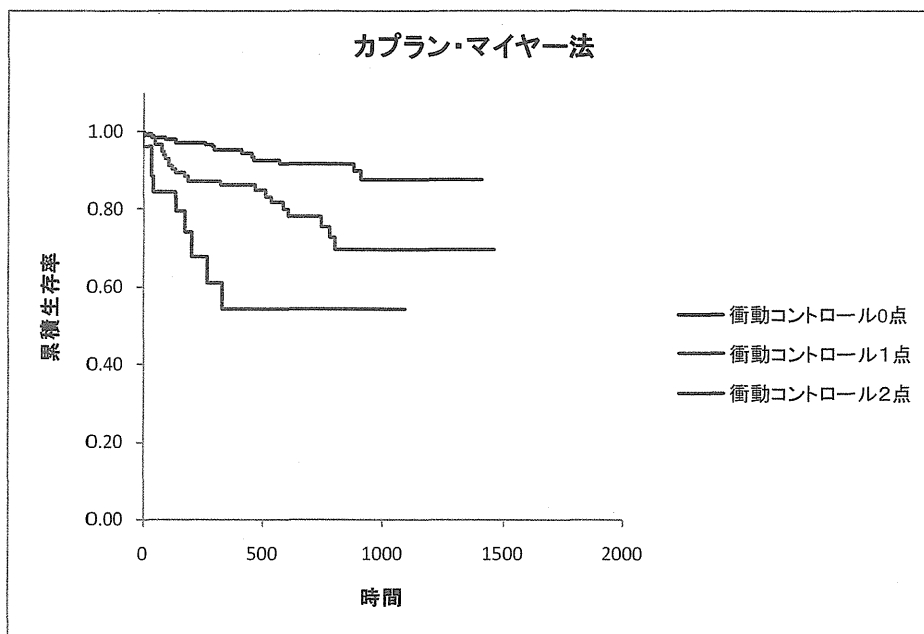


図9 【衝動コントロール】の生存率曲線

表2 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定 (0点と1点、2点の3群)

手法	カイ二乗値	自由度	P値
ログランク検定	28.356	2	0.000
一般化Wilcoxon検定	29.104	2	0.000

表3 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定 (0点、1点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P値
ログランク検定	11.224	1	0.001
一般化Wilcoxon検定	11.240	1	0.001

表4 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定 (1点、2点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P値
ログランク検定	5.862	1	0.015
一般化Wilcoxon検定	6.258	1	0.012

表5 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定 (0点、2点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P値
ログランク検定	30.122	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	31.012	1	0.000

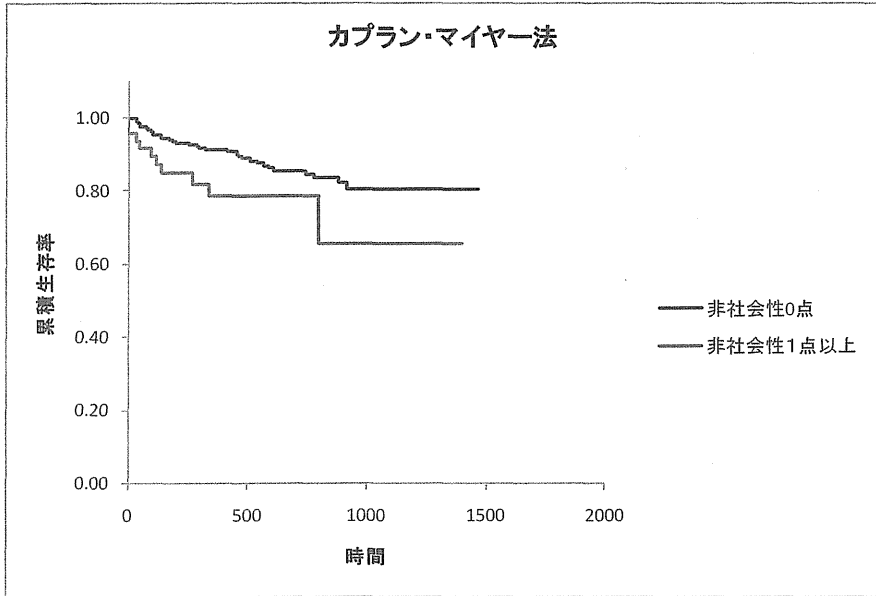


図 10 【非社会性】の生存率曲線

表 6 【非社会性】生存率曲線の差の検定 (0点と1点以上の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	4.184	1	0.041
一般化Wilcoxon検定	4.458	1	0.035

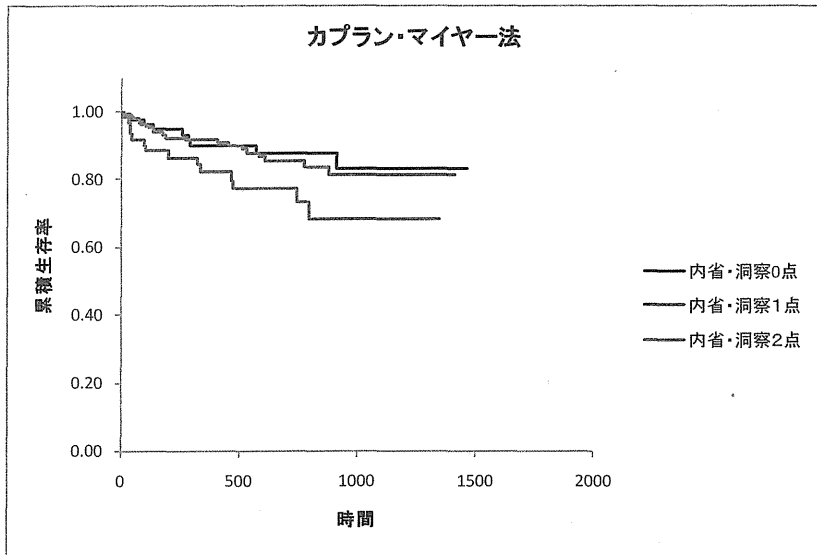


図 11 【内省・洞察】の生存率曲線

表 7 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定 (0点、1点、2点の3群)

ログランク検定	5.094	2	0.078
一般化Wilcoxon検定	5.245	2	0.073

表8 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定 (0点、1点の2群)

手法	カイニ乗値	自由度	P値
ログランク検定	0.070	1	0.792
一般化Wilcoxon検定	0.067	1	0.795

表9 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定 (1点、2点の2群)

手法	カイニ乗値	自由度	P値
ログランク検定	3.990	1	0.046
一般化Wilcoxon検定	4.167	1	0.041

表10 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定 (0点、2点の2群)

手法	カイニ乗値	自由度	P値
ログランク検定	3.481	1	0.062
一般化Wilcoxon検定	3.494	1	0.062

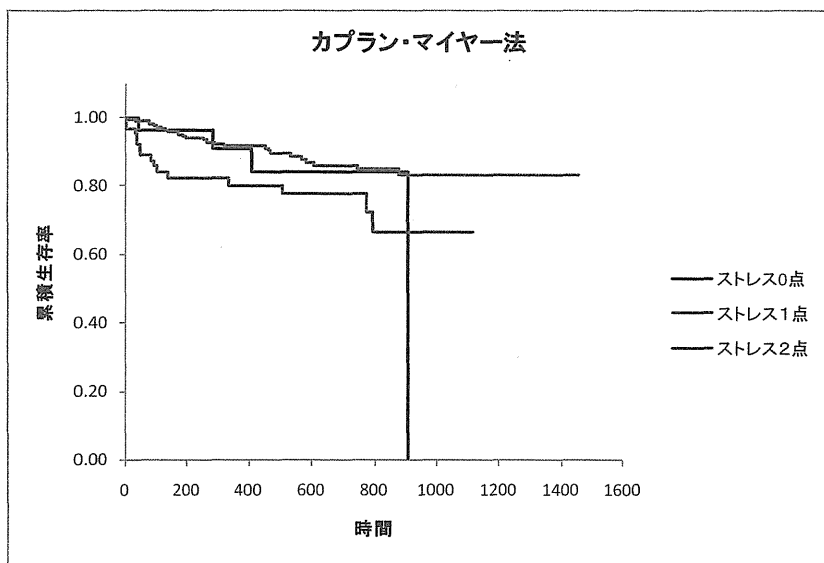


図12 【ストレス】の生存率曲線

表11 【ストレス】生存率曲線の差の検定 (0点、1点、2点の3群)

手法	カイニ乗値	自由度	P値
ログランク検定	7.179	2	0.028
一般化Wilcoxon検定	7.681	2	0.021

表12 【ストレス】生存率曲線の差の検定 (0点、1点の2群)

手法	カイニ乗値	自由度	P値
ログランク検定	0.836	1	0.361
一般化Wilcoxon検定	0.702	1	0.402

表 13 【ストレス】生存率曲線の差の検定 (1点、2点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.070	1	0.008
一般化Wilcoxon検定	7.615	1	0.006

表 14 【ストレス】生存率曲線の差の検定 (0点、2点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.413	1	0.520
一般化Wilcoxon検定	0.669	1	0.413

表 15 【精神病症状】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量³

精神病症状の小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 通常でない思考	0.119	0.198	0.363	1	0.547	1.127	0.764	1.661
2) 幻覚に基づいた行動	0.146	0.225	0.423	1	0.516	1.157	0.745	1.798
3) 概念の統合障害	0.439	0.229	3.658	1	0.056	1.551	0.989	2.432
4) 精神病的しぐさ	-0.120	0.440	0.074	1	0.785	0.887	0.374	2.103
5) 不適切な疑惑	0.113	0.215	0.278	1	0.598	1.120	0.735	1.705
6) 誇大性	0.428	0.322	1.768	1	0.184	1.534	0.816	2.885

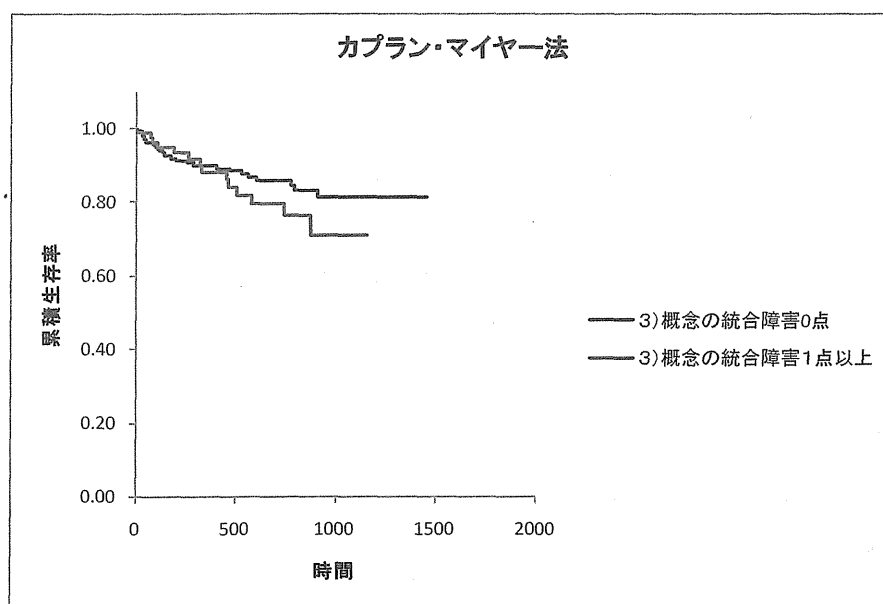


図 13 【3) 概念の統合障害】の生存率曲線 (0点、1点以上の2群比較)

表 16 【3) 概念の統合障害】生存率曲線の差の検定 (0点、1点以上の2群比較)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.973	1	0.324
一般化Wilcoxon検定	0.794	1	0.373

³ 本表の値は、6項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

表 17 【非精神性病症状】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁴

非精神病症状の小項目	係数	標準誤差	Wald検定			ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
			カイニ乗値	自由度	P 値		下限	上限
1)興奮・躁状態	0.858	0.255	11.296	1	0.001	2.359	1.430	3.892
2)不安・緊張	0.609	0.235	6.734	1	0.009	1.839	1.161	2.915
3)怒り	0.859	0.225	14.600	1	0.000	2.362	1.520	3.671
4)感情の平板化	0.116	0.311	0.139	1	0.710	1.123	0.611	2.063
5)抑うつ	0.047	0.403	0.014	1	0.907	1.048	0.476	2.310
6)罪悪感	0.594	0.402	2.189	1	0.139	1.811	0.825	3.979
7)解離	1.542	0.524	8.666	1	0.003	4.676	1.674	13.057
8)知的障害	0.401	0.170	5.566	1	0.018	1.493	1.070	2.082
9)意識障害	1.652	1.016	2.641	1	0.104	5.216	0.711	38.237

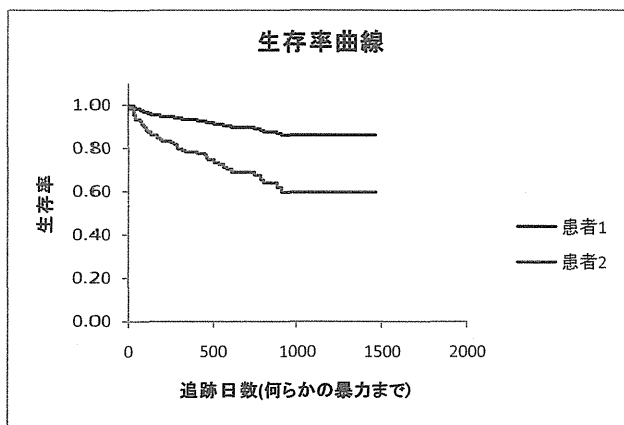


図 14 【2）不安・緊張】の生存率曲線

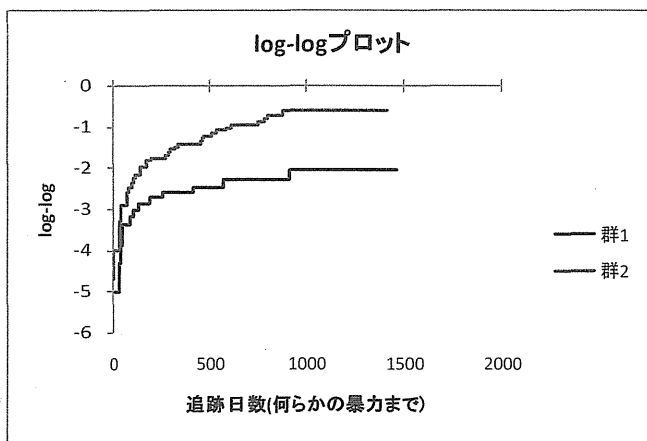


図 15 【2）不安・緊張】の log-log プロット

⁴ 本表の値は、9項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

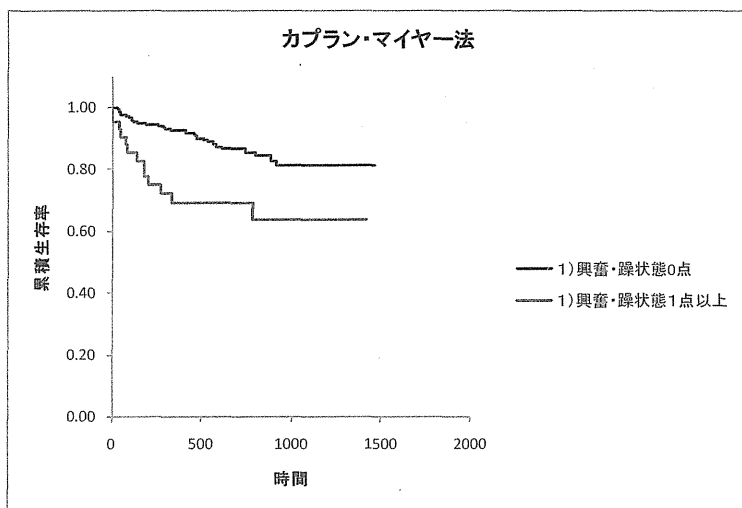


図 16 【1）興奮・躁状態】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 18 【1）興奮・躁状態】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	11.463	1	0.001
一般化Wilcoxon検定	12.429	1	0.000

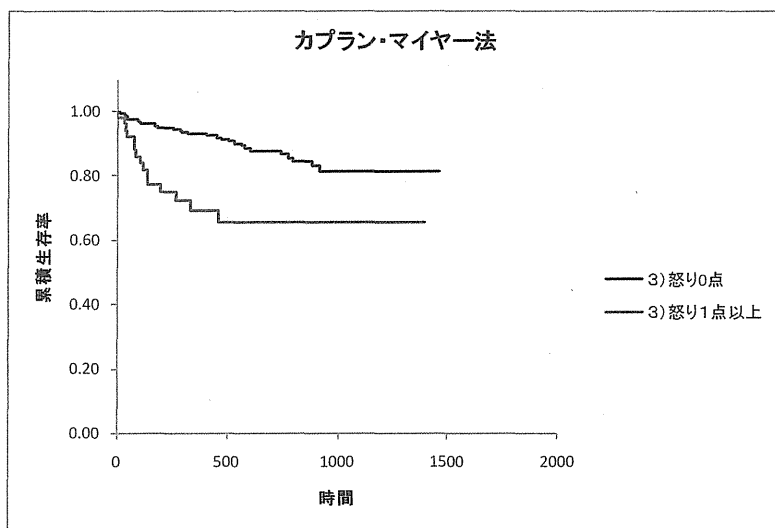


図 17 【3）怒り】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 19 【3）怒り】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	17.160	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	18.244	1	0.000

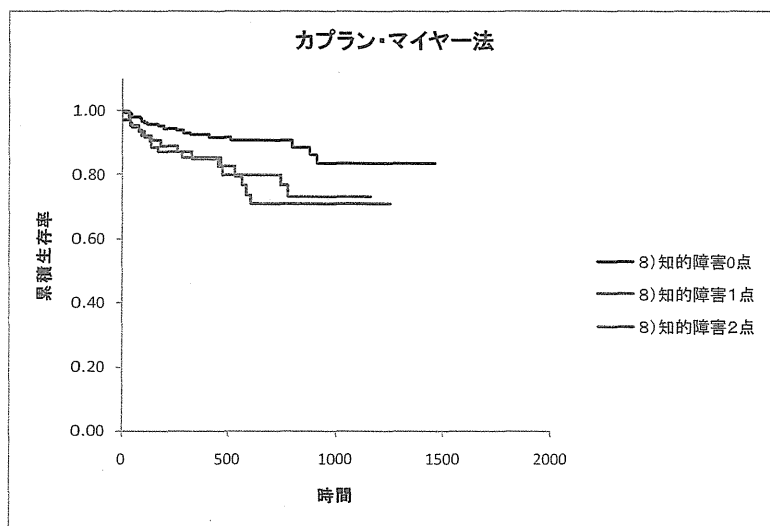


図 18 【8）知的障害】の生存率曲線

表 20 【8）知的障害】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.615	2	0.022
一般化Wilcoxon検定	7.746	2	0.021

表 21 【8）知的障害】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	6.164	1	0.013
一般化Wilcoxon検定	6.240	1	0.012

表 22 【8）知的障害】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.075	1	0.784
一般化Wilcoxon検定	0.069	1	0.793

表 23 【8）知的障害】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	4.441	1	0.035
一般化Wilcoxon検定	4.603	1	0.032

表 24 【内省・洞察】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁵

内省・洞察の小項目	係数	標準誤差	Wald検定			Exp(係数)	95%信頼区間	
			カイニ乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 対象行為への内省	0.292	0.231	1.588	1	0.208	1.339	0.850	2.107
2) 対象行為以外の他害行為への内省	0.539	0.203	7.085	1	0.008	1.715	1.153	2.551
3) 病識	0.403	0.218	3.406	1	0.065	1.496	0.975	2.295
4) 対象行為の要因理解	0.447	0.208	4.640	1	0.031	1.564	1.041	2.349

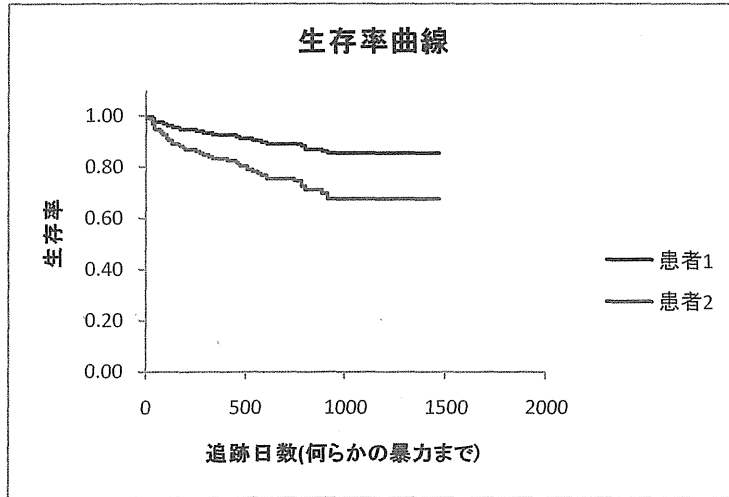


図 19 【4）対象行為の要因理解】の生存率曲線

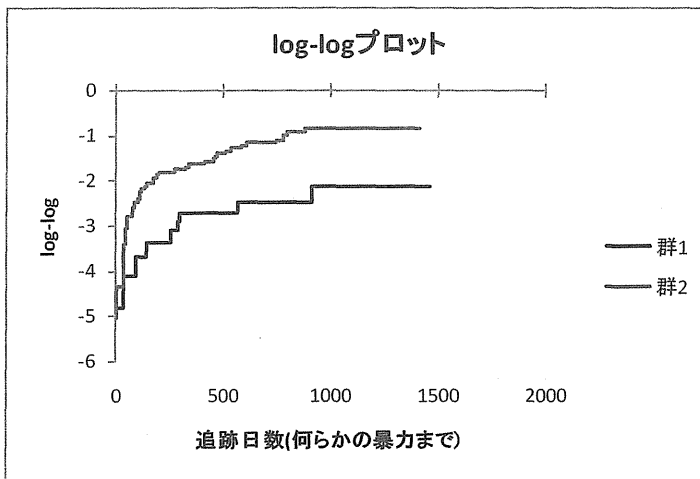


図 20 【4）対象行為の要因理解】の log-log プロット

⁵ 本表の値は、4 項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1 項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを 1 つの表にまとめたものである。

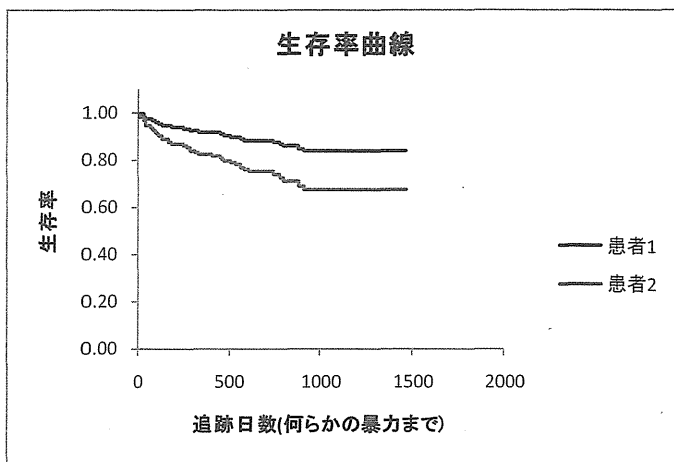


図 21 【3）病識】の生存率曲線

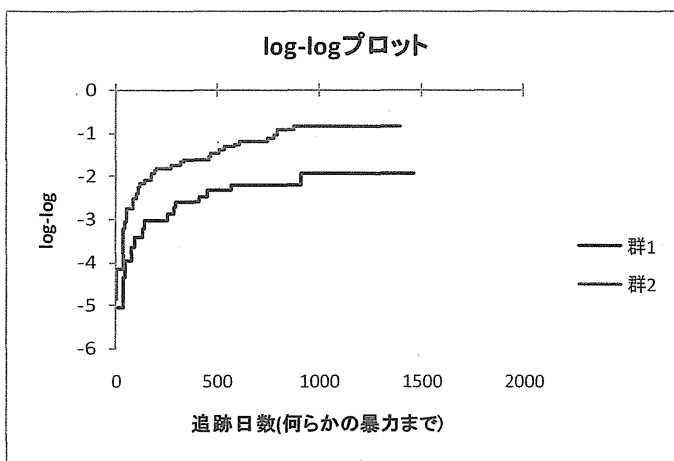


図 22 【3）病識】のlog-logプロット

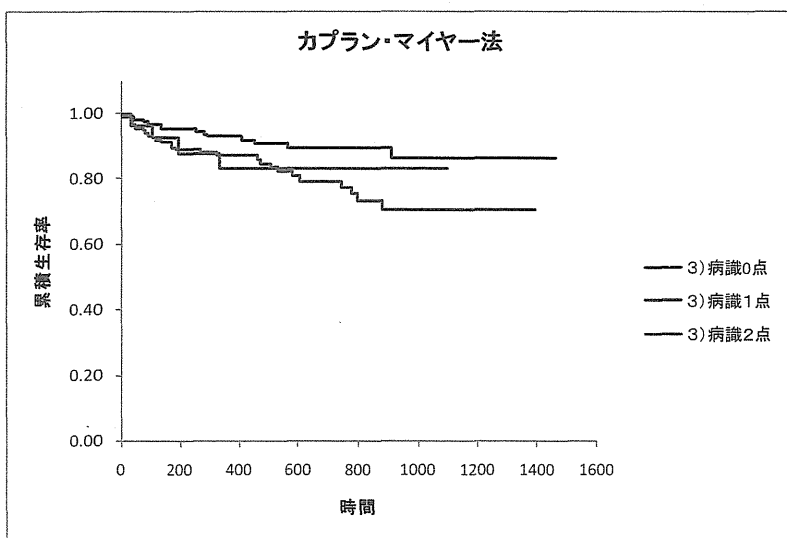


図 23 【3）病識】の生存率曲線（0点、1点、2点の3群）

表 25 【3）病識】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	5.919	2	0.052
一般化Wilcoxon検定	5.784	2	0.055

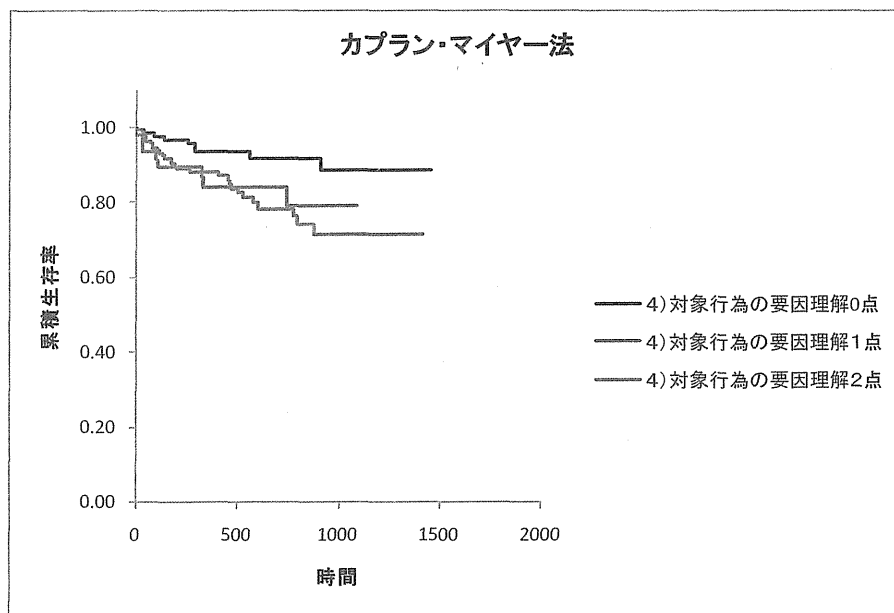


図 24 【2）対象行為以外の他害行為への内省】の生存率曲線（0点、1点、2点の3群）

表 26 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.375	2	0.025
一般化Wilcoxon検定	7.553	2	0.023

表 27 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	3.518	1	0.061
一般化Wilcoxon検定	3.634	1	0.057

表 28 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.898	1	0.343
一般化Wilcoxon検定	0.861	1	0.353

表 29 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	6.581	1	0.010
一般化Wilcoxon検定	6.792	1	0.009

表 30 【生活能力】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁶

生活能力の小項目	係数	標準誤差	Wald検定			Exp(係数)	95%信頼区間	
			カイニ乗値	自由度	P 値		下限	上限
1)生活リズム	0.308	0.284	1.178	1	0.278	1.361	0.780	2.374
2)整容と衛生	0.406	0.299	1.850	1	0.174	1.501	0.836	2.695
3)金銭管理	0.868	0.208	17.475	1	0.000	2.383	1.586	3.580
4)家事や料理	0.634	0.231	7.530	1	0.006	1.886	1.199	2.966
5)安全管理	0.416	0.256	2.653	1	0.103	1.517	0.919	2.503
6)社会資源の利用	0.211	0.266	0.631	1	0.427	1.235	0.734	2.079
7)コミュニケーション	0.351	0.237	2.193	1	0.139	1.420	0.893	2.258
8)社会的引きこもり	0.194	0.309	0.394	1	0.530	1.214	0.663	2.225
9)孤立	-0.006	0.269	0.000	1	0.982	0.994	0.587	1.684
10)活動性の低さ	0.275	0.286	0.928	1	0.335	1.317	0.752	2.305
11)生産的活動・役割	0.327	0.184	3.157	1	0.076	1.387	0.967	1.991
12)過度の依存	0.776	0.226	11.741	1	0.001	2.173	1.394	3.386
13)余暇を有効に過ごせない	0.374	0.295	1.604	1	0.205	1.453	0.815	2.590
14)施設への過剰適応	-0.826	0.952	0.752	1	0.386	0.438	0.068	2.831

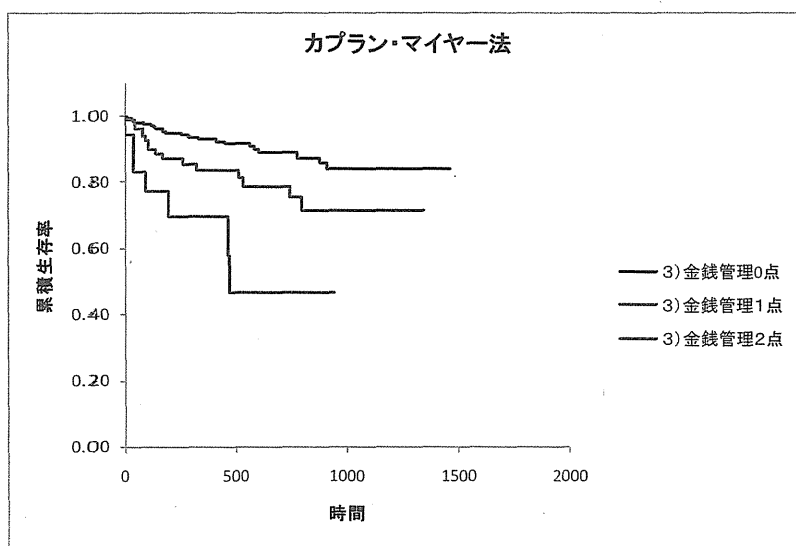


図 25 【3）金銭管理】の生存率曲線（0点、1点、2点の3群）

表 31 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手法	カイニ乗値	自由度	P 値
ログランク検定	22.104	2	0.000
一般化Wilcoxon検定	22.470	2	0.000

⁶ 本表の値は、14項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

表 32 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（0点・1点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	6.139	1	0.013
一般化Wilcoxon検定	6.333	1	0.012

表 33 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	5.049	1	0.025
一般化Wilcoxon検定	5.217	1	0.022

表 34 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	21.930	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	22.120	1	0.000

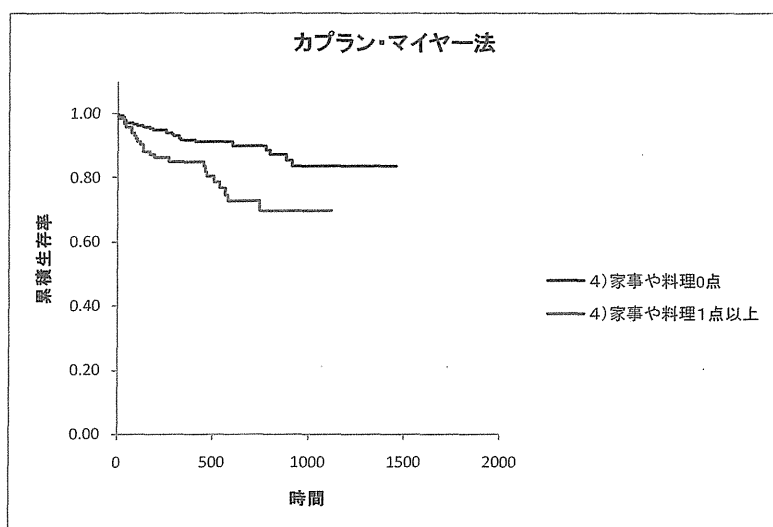


図 26 【4）家事や料理】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 35 【4）家事や料理】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	9.264	1	0.002
一般化Wilcoxon検定	9.292	1	0.002